

新潟県租税教育推進協議会長賞 佳作

暮らしを支える「社会の会費」

新潟県立長岡明德高等学校

三年 平澤 日南

「税金」と聞くと、あまり良くない印象を覚える。そんな人も多いのではないだろうか。私もその一人だった。平成三十一年十月には、消費税が現行の8%から10%へ引き上げられる予定だ。初めてそのことを知った時、私は漠然と「お店で売られている商品の値段が高くなるなんてちょっと嫌だなあ」と思った。

そんな私の考えを変える出来事があった。ある日のこと、私は買い物のため弟と共に父の運転する車に乗っていた。順調に走っていたその時、突然大きな音と共に車体が揺れ、ガラスの粒が降りかかってきた。うめき声が聞こえ、その方を見ると、右手から血を流した父がうずくまっていた。私は信じられない、という思いとどうして私達が、という思いで一杯だった。父の指示を聞き、私は急いで救急車を呼んだ。その後父は駆けつけた救急車で病院へ運ばれ、窓に頭をぶつけた弟も頭痛を訴えて救急搬送された。病院の待合室で、私は母と共に二人の無事を祈った。

幸い、父と弟は大事には至らず、今ではすっかり回復して元通りの生活を送っている。あの時、父と弟を大きな病院まで運んでくれた救急車。その料金は消費税を初めとする国民の税金で賄われていると父から聞いた際にはとても驚いた。後で調べてみると、世界には救急車を呼ぶのに料金がかかる国も多く、例えば日本では国籍を問わず誰でも無料で利用可能であるのに対し、オーストラリアではオーストラリアの国籍を持たない場合は原則有料である。他にも中国やアメリカのカリフォルニア州では、タクシーのように走行距離に応じて料金を請求されるという。緊急時に、お金の心配をすることなく救急車を呼ぶことができる。私達にとって、このことはどれほど心強いだろうか。私はそう痛感するとともに、それまで税金に対してネガティブな印象を抱き、浅い知識から否定的な考えをしていたことを強く後悔した。

税金は救急車以外にも、教育や警察・消防、街の整備や社会福祉など、私達の身の回りの様々なところで役立てられている。自分の払った税金が誰かの暮らしを支えている。そう考えると、私は少しでも社会に貢献できることを誇らしく思えた。

「税金なんて迷惑だ。無ければいいのに」そんな風に考えてはいないだろうか。私達が納めている税金は多くの用途に使われ、人々の生活を潤している。税を納めることを通して、私達は困っている人を助けたり、社会に貢献することができる。税金は決して迷惑な存在ではないのだ。「ものの価格に上乘せされるやっかいなお金」ではなく「払うことによって人の役に立てる社会の会費」。税に対する考え方をこれからは少し変えて、納税への意識を高めていって欲しい。